YWVOB会 会報 No.53

横浜国立大学ワンダーフォーゲル部OB会

http://ywvob.com/ 2013年4月7日発行

～ 53号の目次 ～

・YWVOB 会長ご挨拶・・・・・・・・・・・・・1
・2013 年第 1 回役員会・・・・・・・・・・・・2
・第 36 回 OB 山行（筑波山）報告・・・・・・・3
・第 37 回 OB 山行（丹沢山）案内・・・・・・・4
・2012 年シニア OB 月例会報告・・・・・・・・5
・苗名小屋便り・・・・・・・・・・・・・・・・8
・写真で見るワンゲル今昔・・・・・・・・・・8
・期別便り（33 期）近況報告・・・・・・・・・ 9
・現役部員の活動報告・・・・・・・・・・・・12
・自由投稿「南会津回想」・・・・・・・・・・14
・編集委員会から・・・・・・・・・・・・・・15

■ YWVOB会長ご挨拶

会長 鈴木（9 期）

ここ最近の政治の世界を眺めてみると、米国ではオバマ大統領が再任し、中国では習総書記が新任し、日本では安倍氏が総理大臣に返り咲き、韓国では初の女性大統領が誕生し、北朝鮮も含めて若返りが進んでいるようだ。

それらと比較するのはあまりにも無関係であるので無意味のように思われるが、学生時代にワンゲル部に所属していた我々の仲間が、社会に出てそれなりの貢献をした後、また社会で現役バリバリである中でも、OB 会の諸活動に回帰し、更には次世代の人びとに対して、OB 会の諸活動の楽しみ方を引き継いでいるように思える。

1988 年からシニア OB 会という非公式の組織が産声を上げ、1999 年に始まったシニア OB 月例会も今年末には 156 回を重ねることになる。

OB 山行は、創部以降のある時期に OB 会活動が停滞したことも影響してか、また年間開催回数が 3 回と少ないこともあっても、今年末には第 38 回を迎える。

次世代シニア OB 会と銘打って、次世代の育成も視野に特別会員制度を設けて、シニア OB 会の運営方法を伝授したいとの思いもあり実施してきているが、それとは別に本来の公式 OB 山行に参加する仲間が増え、また苗名小屋行事にも現役部員も参加し始め、友人や家族同伴も増えるなど、自然体で若返りが進んでいるように感じる。

今後も OB 会員の皆様方と現役とこれを共感しながら、これらの流れを更に促進して行きたいと考えている。

鈴木会長 作の Frankfurt（左）と Budapest（右）

■　２０１３年 第１回役員会報告

幹事長　西田（20 期）

2013-1-26(土) 14:00 から溝ノ口「てくのかわさき」にて第 1 回役員会が開催された。

【出席】嘉納(1)、吉野(2)、吉村(3)、金田(3)、鈴木(9)、山川(12)、白須(17)、山下(17)、堀内(18)、
山口(18)、笛木(19)、石垣(20)、安武(20)、西田(20)、武藤(20)、白木(21)、親跡(34)
＜現役＞古矢(56)　　以上 18 人

【内容】

1.　各委員会報告

①総務（武藤副委員長）：

・OB 総会時のアンケート結果内容確認・・・今後の活動に活かしていく。

・名簿管理方法・・・名簿管理用のデータベースソフト(15 千円、Access）の購入承認。
部員番号の他、会員番号の発番を検討する。

②OB 小屋（堀内委員）：

・雪多く、除雪方法につき継続検討

③編集（石垣委員長）：

・会報 53 号・・・全 16 ページ、原稿締切 3/1、発行・発送 4/7

④OB 山行（山口委員長）：

・筑波山(1/19）晴天だがアイゼンの山行となる。次回は 5/18 丹沢山の予定（マイクロバス使用予定)。

⑤ホームページ（吉村委員長、鈴木副委員長、金田氏）：

・2013 年度活動計画と実績も適宜アップする設定実施（OB 会、シニア OB 会、山行活動など）

・1960 年当時からの公式ワンダリング記録、写真アップ。期別に写真があれば金田氏に送付しアップ依頼。

⑥部史編纂（嘉納委員長）：

・11/17、12/8 に歴史資料館の講習会実施（PHP)、多数参加。

・60 周年記念の一環で 60 周年史料集を整理したいとの提案があり承認された。

・HP から写真投稿できる仕組みを検討する。

⑦会計（吉野幹事）：

・会報送付先は当面は変更しない。会費未納者には送付しない仕組みは別途検討する。

・今年度の会費納入は納入人数、金額とも順調。

⑧現役からの報告（56 期 古矢主将）：

・山小屋スキー合宿を実施（9 人と多数参加)、3 月に屋久島春合宿を計画中。

⑨その他：

（鈴木会長）次回、横浜国大のホームカミングデー（HCD）実行委員長に選出され、3～4 月に HCD 実行委員会立ち上げ。OB＋現役、地域貢献等新しいコンセプトで進めたい旨提案があり、OB 会として協力していく。

（山川さん）名簿管理、情報伝達ツールとしてダイアゴナルキット（対角線 diagonal＋Keep In Touch の略）の仕組み、利便性の説明あり。更新も便利、セキュリティー上も優れており、富丘会は使用中。OB 会としての活用を検討する（コストは月 3 千円程度)。

（その他）　将来的なOB会員の継続確保のため､現役入部時にOB会への加入同意を得ておくなど討議した。仕組みを検討して、次回 OB 総会で議論したい。

2.　次回役員会予定：　2013 年 4 月 13 日（土）14：00～
場所：　てくのかわさき（溝ノ口）　5F　理容・美容実習室

以上

■　第３６回 ＯＢ山行（筑波山）報告

OB 山行副委員長　小野（34 期）

〔日　程〕　2013 年 1 月 19 日（土）
〔参加者〕　嘉納(1)、吉野(2)、郡司、谷上(4)、佐木、早坂夫妻(8)、鈴木(9)、山本(10)、山川(12)、鵜飼、小口、狩野、吉田(14)、中島(15)、小浜、渡邉(17)、壷井、山口(18)、白木夫妻(21)、親跡、小野(34)
計 23 名
〔実　働〕　筑波山神社 10:00―弁慶茶屋 11:30―女体山 12:20―せきれい茶屋 12:40（昼食）13:30―御幸ヶ原 13:40⇔男体山 14:20―ケーブルすれ違い場 15:00―筑波山神社 15:40

今年度の OB 山行はすべて百名山！その第一座は筑波山でした。個人的に筑波山といえば、観光地と四六の〇〇しか思い浮かばず（私は「虫偏に土二つ」が大の苦手）、良いイメージが無かったのです。しかし、実際は山容・コース・展望すべて楽しめる素晴らしい山でした。

1 月の晴れた朝、筑波山神社に集合。三千年の歴史があるという荘厳な神社で、三々五々今年の幸運と山での無事を祈願しました。境内で開会式をして出発。今回は宇都宮在住の鵜飼さんと、OB よりも足腰の強い素敵な奥様を連れた白木さんが初参加。しばらくは樹林帯の山道。12 月の下見では、しっとりとした霊験あらたかな道と感じたものですが、そこは賑やかな OB 山行、ワイのワイのと登っていきます。予定の次のバスに乗って来られた山川さんもすぐに追いつきました。標高を増すと残雪があり、アイゼンの出番。弁慶茶屋跡を過ぎると、名前の付いた奇岩の連続で飽きさせません。弁慶も進むのを躊躇ったという「弁慶七戻り」、生まれ変われるという「胎内くぐり」等々、奇岩好きにはたまらない楽しいコースです。程なく女体山山頂に到着。狭い山頂で詰め合って記念撮影。360 度の眺望で、関東平野の広さを実感でき、遠くに都心のビル群、うっすらと富士山も拝めました。

少し下ってせきれい茶屋にお邪魔して昼食。つ・く・ばの頭文字を具にしたうどん等、それぞれの好みでお腹を満たしました。寒い冬の山歩きで温かい物を頂けるのは何とも有り難い。大勢の注文にてんてこ舞いだったおかみさん、お世話になりました。

茶店の並ぶ御幸ヶ原を越えて男体山へ。双耳峰である筑波山は、いざなぎの尊（男体山）といざなみの尊（女体山）を祀っているのだそうです。独特なその山容から、昔の人が神様の力を感じたのがよくわかります。再び御幸ヶ原に戻り、ここから郡司さんはケーブルカーで下山。体調に合わせてコース取りをする、長く山を楽しむコツですね。歩き組は、雪が残った急斜面を慎重に下りました。百人一首の陽成院の歌で有名な男女川（みなのがわ）の源流を越え、休憩中のお楽しみはケーブルカーのすれ違い。赤と緑の鮮やかなケーブルカーよりも、子供のようにフェンスにかじりつく皆さんの後ろ姿のほうが見ものでした。

筑波山神社に戻って閉会式。OB 山行恒例の下山後温泉はありませんでしたが、興趣に富んだ山歩きの余韻に浸りながらそれぞれの帰途に就きました。

■　第３７回ＯＢ山行（丹沢山）案内

OB 山行委員長　山口（18 期）

今回は皆さんおなじみの丹沢山、塔ノ岳に出かけます。登山口はヤビツ峠を越え宮ヶ瀬の手前にある塩水橋になりますので、ここへは貸切バスで入ります。ここから天王寺尾根に取り付き丹沢山、塔ノ岳と辿ります。

塔ノ岳からは表尾根の新大日を経由して長尾尾根を札掛まで下ります。丹沢山、塔ノ岳は何度か登られた方でも天王寺尾根、長尾尾根は未踏の方が多いはずです。しかも下山地の札掛は 1970 年を最後に YWV 公式記録には登場していません。バカ尾根の人気とヤビツ峠から先のバス路線廃止によって今では忘れられつつあるコースです。でもコースは立派に整備されていますので安心して通れます。

このコースは YWV のホームグランドという気安さもあって、健脚向けに設定しました。日も長い初夏を皆さんで楽しめるようにじっくりと歩きます。

初参加の方、お久しぶりの方、大歓迎！多くの方のご参加をお待ちしています。

また毎月のメルマガでも詳細をお伝えしますので、お見逃しなく。

〔日　程〕　2013 年 5 月 18 日（土）
〔行　先〕　丹沢山（たんざわさん・1567m）
〔地　図〕　昭文社　山と高原地図 28 丹沢 2013
〔集合・交通〕電車：小田急　秦野駅　7:50 必着、8:00 貸切バス出発
　　マイカー：札掛駐車場に 8:20 集合し、バスに途中乗車
　　塩水橋　8:50 着
〔行　程〕　9:00 塩水橋→9:20 本谷橋→11:50 堂平分岐→12:30 丹沢山 13:00→14:30 塔ノ岳 14:40→15:10 新大日茶屋→17:00 札掛　＝マイカーに全員が分乗＝秦野駅
　　（歩行時間 7 時間 20 分）　体★★★　技・危★
〔参加費〕　約 2,500 円（バス代含む）　　〔持ち物〕　昼食、水、おやつ、雨具
〔申込み〕　参加ご希望の方は 4 月 21 日までに下記のいずれかにご連絡ください。
　　バス予約のため締切が早くなっていますので、ご注意ください。
　　マイカーも帰りの足として必要ですので、可能な方はその旨お申し出ください。
　　小浜（17 期）　　山口（18 期）　　小野（34 期）
　　メール：

■　２０１２年シニアＯＢ月例会報告

シニア OB 月例会委員長　塚原（2 期）

2012 年のシニア月例会は 4 月の倉岳山が中止になったので、前年同様年間 8 回の開催となりました。

1 月の曽我丘陵は史上最多の 57 名が参加し、曽我梅林でまだ花の咲いていない梅見をしました。2 月の雪山スペシャルは三度目の北横岳に 32 名が集まり、快晴のもと大展望を楽しみました。

4 月の雨天中止に続き 5 月三本槍岳も雨、7 月にやっと曇りとなり 9 月から持ち直し、11 月大菩薩嶺は好天のもと素晴らしい紅葉に恵まれ、二度目の企画賞に輝きました。

12 月関八州見晴台は、雨天中止となった昨年のリベンジです。曇り空でしたが暖かく、快適な忘年登山となりました。終了後は恒例の年間表彰を行い、一年を締めくくりました。

【第 139 回　曽我丘陵】･･･1 月 30 日（月）快晴、57 人

- 天気は快晴、日差しは暖か。参加者 57 名は新記録です。
- 真っ白な富士山、丹沢、箱根の山々が間近に見え、相模湾がキラキラと光り、横浜のランドマーク、東京スカイツリーなども遠望され、展望タイム、写真タイムが何回も開かれました。
- 4 期原さんから大きなみかんの差し入れ、いこいの村あしがらで天重、しらす丼等の昼食、曽我別所梅林でのおでん、焼き鳥、杵つき餅での梅見の宴と、花は咲いていませんでしたが、大変結構な観梅グルメツアーでした。

【第 140 回　北横岳】･･･2 月 19 日（日）快晴、32 人、貸切バス

- 3 度目の雪山特別北横岳は快晴で暖かく、風もほとんどなく、頂上だけは風が冷たかったですが、360 度の大展望を楽しみました。
- 日曜日の開催で道路やゴンドラの渋滞、混雑が心配されましたが、往復ともに渋滞なし、ゴンドラも 1 回待ちで乗れました。
- スキー客はそれほどでもなかったようですが、登山客は大変多くて、すれ違いや追い抜きでしばしば行列を止められました。
- 北横岳ヒュッテの温度計は正午でマイナス 13 度でした。

【第 141 回　烏場山】･･･3 月 24 日（土）くもり時々晴、39 人、貸切バス

- 新日本百名山の烏場山は標高 266m で一番低い山ですが、小さなアップダウンが随所にあり、13km という歩行距離はシニアにふさわしいコースです。
- 前日の雨も上がり、ときどき青空も顔を出し、爽やかな春風を頬に受けて皆快適に歩きました。
- 道がぬかるんでいたのが玉に傷でしたが、時折樹間から覗く太平洋の白い波は勇壮でした。また夕方海辺の湯から眺めた富士山、丹沢、伊豆の万次郎、万三郎、伊豆大島の眺めも圧巻でした。

【第 142 回　倉岳山】･･･4 月 14 日（土）　　雨のため中止。

【第 143 回　三本槍岳】･･･5 月 28 日（月）　雨、42 人、貸切バス

- 4 月が雨で中止になったこともあり、42 人という多数参加でしたが、今月もまた雷雨のため登山は中止となり散策に切り替えました。
- 歩き出してすぐに雨が降り出し、雷も激しく鳴り出したので 1 時間ほどで引き返しました。ゴンドラ山頂駅に戻るころには大粒の雹が降ってきました。
- お目当てのゴヨウツツジ（シロヤシオ）はまだつぼみでしたが、帰路、傘を差して那須平成の森を散策し、ミツバツツジ、シロヤシオ、ヤマツツジをたっぷり鑑賞することができました。

【第 144 回　北八ヶ岳・ニュウ】･･･7 月 25 日（水）くもり、46 人、貸切バス

- 5 月の三本槍岳が雨で登山できなかったので、4 ヶ月ぶりの登山となり、46 人も参加しました。
- 下界は 30 度を超える暑さですが、さすが北八ヶ岳、2000m級の高山は涼しくて快適でした。

・A（ニュウ）、B（高見石、丸山）、B′（白駒池散策）と 3 つのコースに分かれて、それぞれ夏の山や夏の花を十分に満喫しました。

【第 145 回　西上州・荒船山】･･･9 月 29 日（土）　晴/くもり、35 人、貸切バス

・2 ヶ月ぶり月例会は台風の谷間で天気には恵まれたものの、出発からハプニングの連続でした。
・朝の関越道は事故渋滞で 1 時間遅れ、おまけに、高坂 SA 内で乗用車と衝突しそうになり、冷や汗をかきました。
・B コースは温泉はあきらめかけていたところ、地元の軽トラが K 氏を乗せて荒船の湯まで送ってくれたので、何とか間に合いました。
・帰路、花園～東松山間事故渋滞 200 分は、ドライバーの決断により、その区間高速道路を降り、一般道を 37 分で走ってリカバーし、新宿駅帰着 21 時を実現しました。
・登山コースは手ごろで、変化に富んでいて面白かったと好評でした。

【第 146 回大菩薩嶺】･･･11 月 9 日（金）　晴、42 人

・11 年ぶりの大菩薩は、A（大菩薩嶺）36 名、B（小金沢山）3 名、C（大菩薩峠）3 名の 3 コースに分かれて実施されました。
・電車・路線バス組とマイカー組と二手に分かれて集合しました。路線バス組往路は 24 名で貸切となりました。
・頂上、稜線の紅葉は既に終わりを告げていましたが、甲斐大和から上日川峠までの林道から眺める竜門峡や山並の紅葉は、まさに今が盛り、圧巻でした。
・好天に恵まれ、南アルプス、八ヶ岳、冨士山とその周辺、奥多摩、丹沢の山々の展望も抜群でした。

【第 147 回関八州見晴台】･･･12 月 21 日（金）　くもり、32 人

・今年最後の月例会は、奥武蔵の高山不動尊に詣で、関八州見晴台から顔振峠へ下るコースです。
・生憎曇り空でしたが午前中は薄日も差し、風もなく暖かな一日でした。
・関八州全部は見渡せませんでしたが、丹沢から奥多摩、奥武蔵、秩父の山々が間近に見えました。眼のいい人はスカイツリーも見えたそうです。　下山後今年度表彰を行いました。

参加 50 回賞　細田（7）、参加 30 回賞　小出（8）
皆勤賞　21 名、企画賞　11 月大菩薩嶺　吉野（2）

2012 年度企画賞受賞月例会　11 月 大菩薩嶺

■2012年実施状況

［月別実施状況］

回	月	コース	天候	幹事	参加者	摘要
第139回	1.30（月）	曽我丘陵	晴	4. 郡司	57	
第140回	2.19（日）	北横岳	晴	7.小林	32	貸切バス
第141回	3.24（土）	烏場山	くもり/晴	7.小林	39	貸切バス
第142回	4.14（土）	倉岳山	雨・中止	6.近藤		
第143回	5.28（月）	三本槍岳	雨	8.田中	42	貸切バス
第144回	7.25（水）	ニュウ	くもり	7.服部	46	貸切バス
第145回	9.29（土）	荒船山	晴/くもり	6.岡田	35	貸切バス
第146回	11. 9（金）	大菩薩嶺	晴	2.吉野	42	
第147回	12.21（金）	関八州見晴台	くもり	3.腰塚	32	
					325	月平均　40.6

［皆勤賞］　22名

期	氏　名	通算回数
1期	嘉納	初受賞
2期	吉野	13回目
2期	北見	7回目
3期	腰塚	14回目
3期	白井	6回目
3期	吉村	6回目
3期	金田	2回目
4期	郡司	7回目
5期	高須	3回目
5期	諸角	初受賞
5期	諸角	初受賞
6期	岡田	5回目
7期	橋本	3回目
7期	細田	2回目
7期	南雲	初受賞
8期	田中	4回目
8期	早坂	4回目
8期	溝田	2回目
8期	小出	2回目
8期	綾部	初受賞
8期	平沼	初受賞
8期家族	田中	初受賞

［100回参加賞］　2名

期	氏　名	通算回数
3期	白井	104
6期	岡田	102

［50回参加賞］　1名

期	氏　名	通算回数
7期	細田	54

［30回参加賞］　4名

期	氏　名	通算回数
3期	諸節	33
5期	諸角	36
8期	綾部	34
8期	小出	33

（通算回数は12年12月現在）

■通算実施状況（1999～2012年）

［参加者数］

年	実施回数	参加者	1回当り
	回	人	人
99年	10	238	23.8
00年	11	304	27.6
01年	10	317	31.7
02年	9	340	37.8
03年	11	337	30.6
04年	10	332	33.2
05年	11	367	33.4
06年	12	397	33.1
07年	11	345	31.4
08年	9	326	36.2
09年	9	367	40.8
10年	9	350	38.9
11年	8	291	36.4
12年	8	325	40.6
計	138	4,636	33.6

［企画賞］

年	月	コース	幹　事
00年	12月	石割山	7期小林
01年	6月	尾瀬ヶ原	4期斎藤
01年	11月	大菩薩嶺	2期塚原
02年	5月	甘利山	7期小林
03年	5月	榛名山	2期塚原
04年	03.12月	仏果山	8期田中
04年	1月	宝登山	1期嘉納
05年	9月	箱根・仙石原	4期谷上
06年	1月	入笠山	7期小林
06年	11月	赤城・地蔵岳	8期田中
07年	10月	物見山	3期腰塚
08年	10月	茶臼山	7期服部
09年	6月	荒山・鍋割山	2期吉野
09年	11月	伊豆・踊子歩道	4期郡司
10年	2月	縞枯山	7期小林
11年	7月	黒斑山	6期岡田
12年	11月	大菩薩嶺	2期吉野

［参加者数ベストテン］

順位	コース	年　月	幹　事	参加者
1	曽我丘陵	12年1月	4期郡司	57人
2	湯坂路	09年12月	7期小林	56
3	高麗山	11年1月	7期小林	53
4	A.鎌倉天園 B.寺社巡	06年1月	7期小林	51
5	横浜・大丸山	10年1月	6期近藤	49
5	高川山	08年12月	6期近藤	49
7	伊豆・踊子歩道	09年11月	4期郡司	48
7	霧ヶ峰	10年7月	2期吉野	48
9	鎌倉・源氏山公園	02年1月	3期江崎	47
9	荒山・鍋割山	09年6月	2期吉野	47

［皆勤賞受賞回数ベストテン］

順位	氏　名	回数
1	3.腰塚	14回
2	2.吉野	13
3	7.古宮	8
4	2.北見	7
4	3.塩谷	7
4	4.郡司	7
7	3.白井	6
7	3.吉村	6
9	6.岡田	5
9	7.林	5

■ 苗名小屋便り

OB 小屋委員長　　榎本（12 期）

２月の第２回雪下ろしで残ったてっぺんの冠雪！

年末は現役の皆さん 9 名が単独で小屋入り、年始は 39 期後藤さん一家（4 人）と、10 期山本さん、30 期笹倉さん、現役 54 期谷口さん、同 56 期畑さん一行が利用されました。また、第２回雪下ろしは２月 9 日（土）～11 日（月）に、8 期佐木さん、10 期山本さん、14 期小口さん、18 期山口さん、39 期後藤さん一家 4 人、46 期竹村さん、46 期三井さん一家２人、56 期古矢さん、聖マリ大大井さん、12 期榎本の総計 14 人の参加で実施いたしました。天候に恵まれ、てっぺんの冠雪を除いてきれいに雪下ろしができました。みなさんありがとうございました。第3回雪下ろし＆春の小屋行事 は、3 月 23 日(土)、24 日(日)、25 日(月)に実施を予定しております。

今後の予定は 6 月小屋明け＆山菜採り、7 月小屋山行＆草刈、8 月小屋整備、10 月秋の小屋行事、11 月小屋締め・・・です！

■　写真で見るワンゲル今昔

部史編纂委員会　編

今回は、大学祭を取り上げました。我が部が初めて参加したのは 1958 年秋の大学祭で、喫茶店"モンブラン"を経営しました。スカイライン Vol.2　No.1 に載った 1 期佐藤さんの「金もうけの話」によると、当時のワンゲルは「金欠病」にかかって、帳尻はいつも赤ばかりでした。よしここらで一つ「もうけてやろうか」と、大学祭が始まる三日前から急に動き出しましたが、幸い私達の熱心が八幡大菩薩に聞き入れられましたか、大願成就一階ホールが開業場所と決定致しました。コーヒー一杯 30 円で稼いで赤字解消を果たしました、とあります。

残念ながら、モンブランの写真はありませんが、同じ年に工学部機械工学科二年生が企画した大学祭の仮装行列の写真をお目にかけます。ワンゲル部員 1 期 4 名が参加しています。吉田和さん(1)は骸骨亡者、嘉納さん(2)は死神で髑髏のお面をかぶり、藤岡さん(3)、吉田輝さん(4)は主婦に女装しています。

工学部玄関前からいざ出発し

て、伊勢佐木通りを練り歩きます。当時の岸内閣を批判したもので、左側は旧軍人や財閥関係、右側は虐げられた人々、喜んでいるのは死神や亡者と云った塩梅でした。嘉納さんに聞くと、行進中はお面をかぶっているのをいいことに、可愛い子を見かけると投げキッスをして、キャキャいわれて、楽しかったとのことですが、いまなら、お面をかぶっていなくても、そんなことをされたら、恐怖で真っ青になって凍り付くでしょうね。この仮装行列は評判が良く、受賞しました。賞品のビールを貰っているのが嘉納さん、賞状を持っているのが藤岡さんです。

大学祭でカレーを売り出したのは翌年のようですが、これがいまだに続いているのですね。その舞台裏の炊き出し風景が残っています。南太田の経済学部の中庭です。左が練炭コンロの上に飯盒を載せてご飯を作っているところ、右は4期安倍さんがサービスしているところです。

みんなでカレーを食べているところ、立っているのは 2 期吉野さん、中央は学生服の3期金田さん、その右の背広姿は3期の渡辺さん、その他の人もみんな部員ばかりです。

大学祭に出したのは、カレーばかりではありません。展示室でテーマを掲げてまじめに問題を追求するコーナーを作りました。1966 年のワンダー・フォーゲル シンポジウムでは次のような趣旨になっています。

ワンダー・フォーゲル
シンポジウム
「沖縄」「台湾」
11月2日
10:00～ II大教室
11月3日
10:00～ I大教室

農大事件以来，ワンダー・フォーゲル運動は社会的に白眼視されている。しかし，国大ワンゲルは，ドイツ・ワンゲルの正当性を受けついでいるつもりである。活動の目的は，「各土地の風土に密着した生活を見つめ，人間の本来的自由を追求し，大自然を活動の主たる活動の場としている」。ここ二，三年「台湾」「沖縄」に行く回数も多くなってきている。そこの報告，紹介を行いながら，シンポジウム形式で種々の問題を共に考えてみたい。

しかし、このシンポジウムの文書資料、写真はありません。みなさん、資料や写真をお持ちでしたら、部史編纂委員会に送って下さい。

■　期別便り（33 期）　－　近況報告

木村（33 期）

木村 : 33 期は 1993（平成 5）年 3 月に卒業しました。あの水無寮から 20 年以上が経ったことになるんですね。年をとるわけです。同期が集まったのはいつだったか思い出せないぐらい。今回は良い機会だったので、木村が音頭をとって同期の近況報告をとりまとめました。以下、写真すらありませんが、長文をお許しください。

木村 : まずは、トップバッター河上君、お願いします。
河上 :『ワンゲルを引退してから、登山どころか、運動も一切しなくなり、社会人一年目にはあっという間に 20 キロも体重が増えてしまいました。このままではいけない！見苦しい自分の姿を変えたい！とダイエットを始めたのが 2000 年のこと。筋トレとランニングと食事制限によって、7 ヶ月で 20 キロのダイエットに成功しました。ダイエットのために始めたランニングにすっかりはまってしまい、今でも走り続けています。山も「登山」ではなく、マラソンのトレーニングとして登ることばかりです。富士山、大山、箱根にはトレーニングでよく行きます。高校、大学と登山の部活、サークルをやってきた私には、競技としてのマラソンに新鮮さを覚え、今もなおタイムの向上に励んでいます。「学生時代から競技生活を送りたかったなぁ」とチラッと思うこともありますが、大学当時、充実した日々を送っていたことは間違いありません。マラソンに飽きたら自転車競技、それも飽きたらのんびり登山と考えていますが、ランニングはしばらく飽きそうにありませんね』
木村 : 7 ヶ月で 20kg 減というダイエットは見事です。現役当時、山マニアだった河上君ですが、今はランニングと筋トレにはまっているようですね。続いて、紅一点だった原さんからもメッセージが届きました。

原 :『山に登るために入部したはずが、山に入るための組織運営と準備に追われて終わったような現役時代だったと思います。おそらく退部してからの方がはるかに多くの山に登り、登山を楽しみました。もっとも、それはワンゲルでの経験があったればこそ、できたことです。ただ、現役時代の部内での 2 年もやった執行部の経験は社会に出て、組織の中で働く上で確実に役立ったと思います。今は毎日、山を目にしながら登ることがない生活ですが、昨今の「山ガールブーム」のおかげで、誘ってくれる人も多いので今年からはハイキング程度は行こうかな、と考える今日この頃です』
木村 : 同期としては「ドキッ」とするメッセージ。でも、子育ても一息ついたとのことですので、今後は、気軽に楽しく、山に登ってください。さて、お次は藤井君からのメッセージです。

藤井 :『33 期内輪としての近況報告としては、横井、福助と大西さんのお墓参りに毎 GW 後半に行ってます。横井と私は今度の GW で連続 15 回目。太り始めたのを気にして、走り始めました。時折ハーフのマラソン大会に出ています。でも、全く自慢できるタイムではないです。諏訪湖ハーフ、守谷ハーフは各 2 回。他に大山登山マラソンというアホみたいにつらい大会とか。先週は東京マラソンに当選したので走りました。4'48 なので、河上の 2 倍（笑）。初フルでしたが、都心を走れて楽しかったです。ハーフのベストは 1'55 なので、これを何とか秋の諏訪湖マラソンで 1'45 にするのが目標。それでも河上の 2 倍（笑）。山は、八ヶ岳メインに妻と行っています。金曜夜に中央高速走って泊まり、土曜は天気によって諏訪湖 1 周（16 キロ）を走ったり、八ヶ岳で日帰り範囲で登ったり（天狗とか、硫黄、西岳＋編笠とか）。日曜の午前、渋滞前に帰京して家事、というパターンです。妻も比較的健脚なので、今年は赤岳に日帰りで行く予定。昨年は年間 30 泊しましたので、茅野方面は詳しくなりました。小田急線沿いに住んでいるので、丹沢や大山に時折行きます。何故かあんなにつらかったバカ尾根をコースに選んでしまう（何だかんだでピークまで短時間だしね）』
木村 : 大西さんの墓参り、経経コンビの皆さんありがとう。文面から、バリバリ登っている様子がわかります。健脚の奥さんと仲良く山登りとは、うらやましい限りです。そして、北海道にいる福島君からもメッセージが届きました。

福島 :『社会人になってすっかり足腰が弱り、本格的な山には全く登れません。しかし、縁あって 2010 年 4 月より札幌勤務となり、思い出深い「十勝岳～大雪山」をエリアに含む道北方面を担当しています。美瑛や富良野を仕事で訪れる際は、必ず見晴のよいところで車をとめ、山々を眺めては青春の思い出（三年の夏合宿）のフラッシュバックに身を委ねています。もう 21 年も経つんですね・・・。夜中に目が覚めてテントから顔だ

け出して見た、月明かりに浮かぶトムラウシの姿など、今でも鮮明に覚えています。また、稚内も担当なので、PW で登った利尻富士にもよく再会します。雪化粧姿など、四季おりおりの表情が素晴らしいです。学生のころには、就職して家族連れで北海道に住むなど想像もしませんでしたが、家族で思い出の残る各地を回っていると感慨深いですね。コースタイム 2 時間以内なら何とかなるので、家族（嫁、長女 6 歳）で、樽前山に登りました。1000m の山ですが、さすが北海道の山だけあって、なかなかの高度感を味わえます。眺望も素晴らしいはずですが当日はガスが多かった。転勤がなければ、ロープウェイ前提で黒岳（大雪山）くらいには、チャレンジしてみようと思います』

木村：山がない地域に住んでいる身としては、北海道、うらやましすぎる。でも「おじいさん」にならないよう体力をつけてください。さて経経コンビの最後、横井君からメッセージが届きました。

横井：『社会人になって以降、名古屋→大阪→東京と勤務地が変わり、東京では会社が 3 社目になって、数年に一回はガラッと環境が変化するのを楽しんでいます。週末、ウィンターシーズンはスキーにスノーシュー、それ以外の期間はドライブ、温泉を楽しんでいます。ワンゲルのことが役立っていることは、歩くことが全く苦にならないことでしょうか？震災の時も 4 時間かけて歩いて帰ってきました。平凡な生活すぎて、ネタがなくてスミマセン』

木村：転勤を楽しみにし、冬はスキーにドライブ、温泉なんて、本当にうらやましいなぁ。私も久しぶりにスキーしたい！（直滑降しかできません）　お次は、合掌氏です。

合掌：『岐阜の大学に赴任して今年で 15 年目になります。ワンゲル出身者としてはとても魅力的な環境なはずなのですが、最後に山に行ったのはいつだったか・・・10 年ほど前に黒部～剱に行ったぐらいですね。これは「近すぎると却って行かない」心理なのか、単にズボラなのか・・・。しかし妻が高山出身なので、帰省の度に北アルプスの峰々や御岳、乗鞍を眺めて癒されています。また、近年は秦野市をフィールドに都市近郊居住者のライフスタイルと意識についての研究を行っており、現地に行く度にワンゲルに在籍していた頃を懐かしんでいます』

木村：秦野がフィールドとは、合掌氏も何かの縁でしょうね。今度、地域づくりについていろいろと教えてください。そして原稿〆切ギリギリでやっと連絡がとれた鈴木君の登場です。

鈴木：『子どもが小さなうちは、旅行先でのハイキングが中心でした。当時、執行部危機？の中で行われた北海道夏合宿。最後のピーク旭岳に、数年前、家族で登りました。息子が登山に興味をもち、昨年 2 人で、コース中の八方池が美しい唐松岳へ。ピークから眺める峰々に、ワンゲル時代の山行を思い出すことができました。エレベーターのない職場で、階段の上り下り程度の運動しかしていない体には、きつい山行でした。しかし、ワンゲルで味わったあの山の雰囲気を感じるために、まだまだ挑戦を続けたいです』

木村：鈴木さん、危なく 10 年後まで近況が聞けないかと思い冷や冷やしました。間に合ってよかったです。そして、最後に私、木村です。

木村：『学部を卒業してから、20 年間で登った山は数えるほどしかありません。大学院時代に恵庭岳、屋久島、鳥海山、焼岳に登ったぐらいでしょうか。現在は、沖縄ヤンバルにある小さな大学で心理学の教鞭をとりつつ、学生ボランティアの顧問をし、学生の自主性を育てています。実は、そこで役立っているのがワンゲル時代のいろいろなノウハウです。「友垣」のようなノートを作り、学生たちの本音を理解する手段に使っています。また、ワンゲル時代に、非常に濃密で複雑な人間関係を体験しましたので、その体験がとっても役立っています。さすがに「総括」という言葉は使いませんが、活動の「振り返り」を長時間・徹底的にやるのも、ワンゲルで学んだことです。お陰様で、この学生ボランティアを見るために、県外から視察が来るようになりました。せっかく長男に「穂高」、長女に「杏南（アンナプルナからとっています）」と名づけましたので、将来は子どもと一緒に山に行くことを楽しみにしています。ただし、沖縄の車生活になじんでいるので、体力がもつかどうか心配です。皆様、沖縄においでの際は、ぜひ一声かけてくださいね』

木村：以上、33 期の近況報告でした。家庭や仕事で忙しくても、ワンゲル当時の体験が何らかの形で影響している近況報告でした。先輩や後輩の皆さんとは、あまり交流できておりませんが、同期は、このように元気でがんばっております。長文を読んでいただき、ありがとうございました。

■　現役部員の活動紹介

主将　古矢（56 期）

今年度から主将を務めることになりました古矢と申します。早速ですが夏合宿を中心とした 2012 年度の主な活動について紹介していこうと考えています。

まず 2012 年度の最初の活動は、新歓ハイクでの大山登山です。大山登山では当時登山経験のない自分でも特に苦しいところはなく登れましたが、登山を始めてしばらくしてガスってしまい、景色を楽しむということはできませんでした。その後の新人錬成では雲取山と燧ヶ岳に行きました。雲取山については、ほとんどの一年生にとって初めての泊りがけの登山で、重い荷物の中、自分も含めて一年生全員がキツイと感じていたと記憶しています。燧ヶ岳の登山については、雨の影響もあり、長英新道でのぬかるみと山頂付近の岩場のすべりが印象に残っています。また、景色については、山頂での展望はほとんどなかったのですが、下山後、尾瀬ヶ原からみた燧ヶ岳は、自分が登ったという愛着もあってか、まさに絶景のように感じられました。その後、尾瀬ヶ原を楽しみつつ、鳩待峠まで行き、帰宅しました。

夏合宿では、南アルプスに行ってきました。ルートは、北沢峠から仙丈ヶ岳と甲斐駒ヶ岳のピストン、そして広河原に行き、白根三山の縦走です。なお、仙丈ヶ岳のピストンについては、みんなが参加できる日程の都合もあってか、PW という位置づけになっています。仙丈ヶ岳のピストンは、北沢峠に主な荷物を置いての軽装での登山だったので、新人錬成の時の登山とは違い、景色を大いに楽しみながら気持ちよく登山が出来ました。特に、森林からハイマツへの植生の変化や雄大なカールは今でも強く印象に残っていることです。下山後、PW に行けなかった人たちと合流し、翌日、甲斐駒ヶ岳へのピストンを行いました。甲斐駒ヶ岳の第一印象は、不思議な山だな、というものでした。よく言われることですが、白い岩肌はまるで雪が積もっているかのようでした。甲斐駒ケ岳は、なだらかで雄大だと感じさせる仙丈ヶ岳とは違い、岩場が多く、こんなに近い山同士なのにこんなにも違うのか、と衝撃を受けましたことをよく覚えています。甲斐駒ヶ岳は、仙丈ヶ岳に比べて高度感があったり、バリエーションルートを登ってみる等の試みをしたりして、なかなかスリリングな登山を行うことが出来ました。

仙丈ヶ岳

甲斐駒ヶ岳

下山後、広河原で一泊し、北岳への登山を行いました。大樺沢では、夏でも雪が残っており、その雪渓は目を楽しませ、また、登山で火照っている自分の体を冷やしてくれました。その後の登りでは右俣コースを進み、小太郎尾根分岐まで到達しました。これが、この夏合宿の最大の登りだったのですが、快晴ということもあってか、新人錬成の時のようなキツさは無かったように思えます。そして北岳肩ノ小屋を通り、北岳の山頂に到着しました。天候も良く、山頂からは絶景を楽しむことが出来ました。途中、ライチョウに出会ったり、鳳凰三山等の山々を眺めたりしながら、北岳山荘に向かいました。北岳山荘に着くころには風も強くなり、テントを建てるのも一苦労の状態でした。

翌日、間ノ岳に向けて登山を行いましたが、遠くの方で雷の光が見える等、天候の悪化の兆しが見えていました。進んでいくにつれ、ガスってきて、間ノ岳に着くころには大雨で視界があまりない状態になりました。その天候も、間ノ岳を過ぎたあたりから回復して、農鳥小屋辺りでは雨も上がっていました。この後、予定では大門沢小屋に一泊する予定でしたが、天候が不安定であることや時間に余裕があることから大門沢で一泊せずに、その日に奈良田まで一気に下山をしました。そして、身延でゆっくり温泉に入り、帰宅しました。

また春合宿では、伊豆大島に行ってきました。本来は、屋久島に行きたいと考えていましたが、雪の影響の

少ない3月の後半は皆の予定が合わず、断念しました。伊豆大島にしたのは、ワンゲルの活動を山に限定するのではなく、もっと広げていくべきではないか、という意見があったからです。確かに、ワンダーフォーゲルは自然に親しむことであり、ワンゲルの活動でその親しむ対象を山に限定する必要はないわけです。今後は、山に限らない活動も少しずつ模索していこうと考えています。今回行った伊豆大島のワンダリング活動は、三原山登山と伊豆大島一周です。三原山登山では山に親しみ、伊豆大島一周では海に親しむことが出来ました。

三原山は標高800m程度の小さな山ですが、海岸から眺めた三原山の山々はうっすらと雪が積もっていたこともあり、アルプスにも劣らない光景でした。(三原山登山の前日、自分たちが泊まっていた所では雨が降っており、それが三原山では雪として降っていました。伊豆大島でも一年に1、2回は雪が降るそうです。自分たちは伊豆大島で雪など降らないだろうとタカを括っており、朝起きた時、三原山に雪が積もった光景を見て、驚きました。なお雪のため、ルートを一般の観光客が進んでいく道に変更しました) また、三原山は火山であり、火山特有の岩質やカルデラ地形は今までの登山にはない興味深いものでした。伊豆大島一周では、ワンダーフォーゲルという活動から考えれば邪道かもしれませんが、自転車を使い、一周しました。これは、伊豆大島は一周42ｋｍということと日程の都合から生じたものです。伊豆大島一周は、高低差300mという自転車では少々キツイ道もあったのですが、走っているとき木々の間から見える海、砂漠(伊豆大島には日本で唯一の砂漠があります)、地層切断面等を楽しむことが出来ました。

この他の活動では、野島での設営訓練とBBQ、地図読み訓練、塔ノ岳などへのPWや小屋入りを数回行いました。

現在、自分が考えている今年度の活動計画について説明します。まず、新歓ハイクでは、大山。そして、新人錬成は、一回目は丹沢か奥多摩で泊りがけの登山、二回目は八ヶ岳を想定しています。また、7月に入ったら、引退してしまう先輩も誘って、北アルプス(上高地→横尾→槍ヶ岳→燕岳)、夏合宿は北アルプスに行きたいと考えています。これについては、他の部員と話し合ったりして、今後正式に決めていきたいと思っています。

現在の部員の状況を見てみると、すべての部員が、サークルを掛け持ちしていたり、アルバイトを行っていたり等、ワンゲルの活動のみに集中できない現状があります。今後は、皆が参加できる日程をどう決めるのかがワンゲル運営の鍵になりそうです。特に、登山ベストシーズンに入る7月ごろは、期末試験と重なり、日程の調整が難しいのが現状です。

また、現在二年生の先輩がいないため、ワンゲルの運営は、登山経験が浅い一年生の人たちで行われることになります。何かしらのご指導やご意見を頂ければ幸いです。

十分な計画を立て、また全体の実力を冷静に考え、安全を第一にして登山を行っていこうと考えています。

そして､それ以外にも自然を楽しむこと､また自然とかかわっていくことで何かしら成長することができる､そんなことができるサークルとなるように頑張っていきたいと思います。

2012年夏合宿　北岳山頂

■　自由投稿「南会津回想」

伊藤（37 期）

1996 年（平成 8 年）、秋も深まりつつあった 11 月の上旬のこと。経済学部三年生の私は就職活動もせず、葛飾に住む同期の H 君の自宅に一夜の宿を借り、翌早朝に単身、浅草から東武鉄道に乗車して会津若松へ向かった。

世はバブル経済崩壊後の「失われた 10 年」の只中にあり、買い手市場の就職戦線は氷河期に突入していた。団塊ジュニアに生まれた私たちの世代は、またしても受験戦争に次ぐ過当競争に晒されていた。バブルの清算に否応なく付き合わされる過酷な運命の巡り合わせを呪うしかない時代であった。巷を闊歩したワンレン・ボディコンの女子大生ブームはとうに過ぎ去り、その恩恵に浴することもなかった。華々しかった浮世にセンチメンタルな憧憬を抱きながらも、この頃の私には「勝ち組」に支配されているような世の中が欺瞞と悪意に満ち満ちているように見えた。漠然とした不公平感に青臭い正義感ばかりが肥大化してゆく。そんな自己の内面に嫌悪と侮蔑の情を覚えながら、丸腰で競争社会という戦場のフロントラインに出ていくことに怖気づいて、山に現実逃避の夢を見ていたのだった。

予定は二泊三日。南会津の明神ヶ岳（1074m）と七ヶ岳（1636m）を連続で登るという計画であった。両山は連なっておらず位置的にも離れているから、前者を登り一旦下山し移動して、再び後者に登るという行程の個人山行だった。

生来、どちらかと言えばミーハーな私は、それまでの活動では北アなどのメジャー級を好んで登っていた。以前から同期の主将 S 君が東北の奥ゆかしい山容を絶賛する姿に無意識に感化されていたせいかもしれない。

引退を間近に控えていたこともあり、一度くらいはそっちの方面にも足を延ばしておきたいとの思いもあった。横浜の有隣堂でガイドブックをパラパラめくり、何故か目にとまったこの二山を選んだ。

かれこれ 15 年以上前のことなので、どのような旅程を辿ったか記憶が定かでないが、会津若松に着くと駅からバスに乗車して明神ヶ岳の登山口へ向かった。乗客がほとんどいない車内でワインレッドの派手なアウタージャケットに身を包み、ザックを担いだ姿の私がかなり異質な存在であることは間違いない。高齢のご婦人に会津弁で「山に登りなさるのかい？」と話しかけられた。山名を告げると全く聞き取れない方言全開でいろいろと矢継ぎ早に話されたが、私は「えぇ」とか「まぁ」とかどちらともとれるような曖昧な返事に終始せざるを得なかった。しかし、内心ではその方とのやり取りにその土地ならではの旅の風情を実感して、嬉々とした昂揚感を抑えられず、ニンマリとしていたと思う。私はきっとこのような素朴な温かさに飢えていたのだろう。

登山口となるバス停で降車すると、部のルールに則って留守番本部の役割をお願いしていた友人宅へ入山の電話連絡を入れようとした。実際は翌日の入山を予定していたのだが、朝が早いため前日のうちに架電をしておこうと考えたのだった。しかし、ここまでやって来てしまって、私は漸く自分の失態に気付く。架電しようにも公衆電話が見当たらないのだ。周辺は長閑な山村風景が広がるばかり。今なら、ケータイ一本で済みそうなものだが、当時はまだまだ高嶺の花。「駅で済ませておくべきだった」と後悔しても後の祭り。さて、どうしたものかと思案を巡らせた挙句、仕方なく近隣の人家で電話を借りることにした。農機具小屋と思しき建物と古民家造りの立派な母屋の間の庭先を経て、「すみませーん！」と声を上げると、奥さんらしき熟年の女性が顔をのぞかせた。事情を話すと快く電話を貸していただけた。その頃でも珍しくなっていた黒電話で「じーこ、じーこ」とダイヤルを回したのを鮮明に憶えている。礼を失しないようにと丁重に謝意を述べたとは思うが、気恥ずかしさで早くその場を立ち去りたいと焦っていたと思う。長距離電話の代金を置いてきたかどうかは今となっては忘却の彼方だ。見ず知らずの奇異な若者をためらいもなく招き入れ、親切にしてくださったことに再び人の世の温かさを知ることとなった。

その後、路肩の小スペースを幕営地に定め、夜警のバイトで貯めた小金で手に入れた IBS オリジナルの 1、2 人用のテントを張った。本当は、当時最新のゴアテックスのテントが欲しかったのだが、あまりにも高価であったし、また、噂話に幕営地にデポしておいたら盗まれたというような被害が発生しているとも聞いていたので、ナイロン製のものを買い求めたのだった。

その晩、テントの外に野良犬がウロウロしているような不思議な気配を感じ、不吉な予感にとらわれて一人寝付けずにいたが、翌日の明神ヶ岳往復は何のトラブルもなく遂行することができた。ただ、歩いている間中、道端の草むらの中に隠すように置いてきた IBS のテントの安否だけが気がかりであった。

翌日は気合を入れなおして七ヶ岳に挑んだが、ここでも思わぬハプニングに遭遇した。沢筋のルートの中盤程だったと思う。小滝を乗越すため、ビブラムソールのゴツイ山靴を履いた右足を高く上げた途端、ザックを背負ったまま滑落して川床の岩盤にしたたか背中を打ちつけた。暫くの間、天を仰いだまま息ができず苦悶した。大した高さではなかったと思うが、打ちどころが悪ければ大事に至っていたかもしれない。「このまま身動きが取れなければ、きっと次の週末まで発見されないだろうな」咄嗟に脳裏をよぎった想念に肝を冷やした。

11 月上旬といえどもここは東北。日中は温暖さが残る東京とは訳が違う。それも標高 1000m を超える高所となれば冬の装いに衣替えしていても不思議ではない。沢の流れの中をじっと眼を凝らしてみると、うっすらと張った薄氷が妖しく光っていた。

幸い怪我はなかったが、生死を彷徨う遭難劇の発端も案外こんなものなのかもしれない。

腰のあたりの痛みをこらえながら、再び用心深く歩を進めると視界にチラホラと白いものが映る。それは次第に視界の大部分を占めた。頭を打ってボーッとしてしまった訳でもなんでもなく、それは見紛うことなき雪景色であった。積雪の重みに耐えかねた篠竹がルートの両脇から行く手を阻むように頭を垂れていた。不意に“エスケープ”の 5 文字が胸中に湧いた。とはいっても、他に下山口はないから、戻るか進むかの二者択一だ。地形図と睨めっこをするうちに、「間もなく到着するであろう山頂から先が南斜面であり、おそらく積雪が少ないだろう」と推し量って続行を決断した。山頂が一面の銀世界だったことは想定の範囲内だったが、軽装の私はその迂闊さを反省しながら湯を沸かしてお茶を一杯だけ啜り、早々に下山を開始した。

下り始めるとすぐに季節を逆行するかのように状況は一変した。高く澄んだ青空から降り注ぐ清冽な陽光を浴びて、きっちりとジッパーを締め上げたアウターの胸元が汗ばむのを感じた。

それまで見たこともない美しい滑床のたゆたう水の流れに、とりどりに彩られた紅葉の装いが煌めいて眩しいほどの光を湛える。時に息を呑み、時に嘆息が漏れる。私は感動の断片を思い出に残そうと父の形見のアサヒペンタックスのシャッターを切った。当時は、まだ、デジカメではなかったので、撮影可能なフィルムの残数を確認しながら慎重に構図を決めた…つもりだった。

横浜に帰ってすぐに現像に出したが、手元に戻ってきたプリントには残念ながらリアルタイムに感じた美観が切り出せておらず、眼で見たものをありのままに写し撮ることの困難さを痛感し、己のカメラワークの未熟さに憤った。

結局、旅から戻ってみても私を取り巻く環境や自分自身が劇的な変貌を遂げている訳もなく、ただ前と同じ日常に戻された私は、同級生たちの「何十社にハガキを出した」とか「院への進学を決めた」という話を、相変わらず他人事のように聞き流しながら、リクルートから届いた分厚い冊子に目をやることもなく、益々厭世の度合いを深めていった。

翌月、クリスマス前の街の喧騒を横目に私は妙高行きの夜行列車に乗った。解のない方程式を解くために努力をし続けるという人生の不条理。いつか訪れる夜明けを待ちながら、正月過ぎまで 10 日間ほど苗名小屋で自由を浪費した。

そして現在。

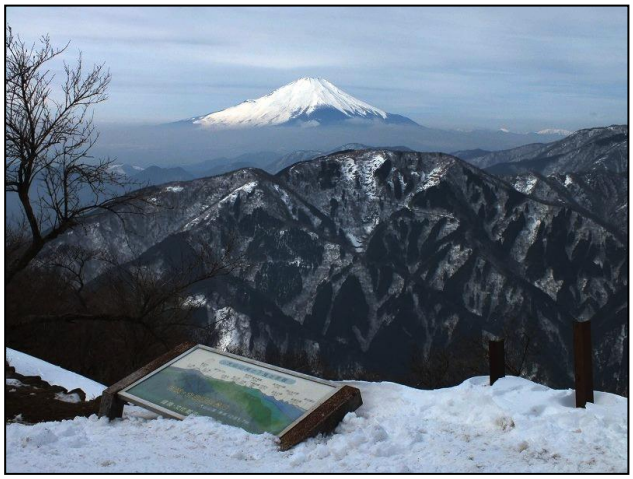
大河の流れに抗うことも叶わず 15 年あまり漫然と漂泊を続けた私は、あの頃と変わったのか、変わっていないのか？山からは久しく遠ざかっているが、あの頃に感じた冴えた山の空気に身が包まれる感覚を思い出すたびに、身が引き締まる思いがする。

先の東日本大震災と震災を端緒とする福島の原発事故。私が邂逅した彼の地の方々が今どのような暮らし向きにあるのかは確認する術もない。ありきたりだが、一刻も早く復興が軌道に乗ることを願うばかりだ。

■　編集委員会から

編集委員長　石垣（20 期）

自然を愛する OB 会員の皆様は春を満喫されていることと思います。この時期は春本番に向かって心がウキウキしてきますね。二十四節気の季節の名前もこの時期は楽しくなります。虫も春を感じて地中から出て来る「啓蟄」、今年は 3/5 です。日の温かさ、明るさ、長さを感じてくる「春分」は 3/20、そして天地が清々しく、世の中が明るい空気で満ち溢れる「清明」は 4/5、まさに今ですね。花見で酔うだけではなく、本当の春を感じに出かけてみようと思います。「そうだ、・・に行こう」



大山からの富士山
2013.1.21
撮影　谷上氏（4 期）

編集委員会では皆様からの投稿をお待ちしています。
自由投稿コーナーの原稿、写真、スケッチなどどしどしお寄せ下さい。
宛先　　石垣（20 期）
　　成島（22 期）

YWVOB 会会報第 53 号

発　　行：　横浜国立大学ワンダーフォーゲル部 OB 会
発 行 日：　2013 年 4 月 7 日
発行責任者：　鈴木(9)
編集責任者：　編集委員長 石垣(20)
編　　集：　編集委員 成島(22)
印 刷 所：　株式会社 カワチヤ・プリント（東京都港区新橋 5-31-7）
編集にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。